

〔県民局だより〕

稲WCSの課題と推進体制について

備中県民局農林水産事業部

先日、倉敷・総社地域の稲WCSについて情報交換会が開催され、今年度の課題と来年度の推進体制等について話し合ったので、その概要をお知らせします。

稲WCSは、生産者（稲作農家）と収穫者（コントラクター）と利用者（畜産農家）の連携が不可欠ですが、初めて取り組んだ地域では、様々な思い違いから、課題も散見されました。他地域でも参考になることなので、紹介させていただきます。

1 ロールの置き場所

写真1の並べ方は、畜産農家が運び出す際、遠くまで取りに行かねばならず、大変手間がかかります。写真2のように、1カ所にまとめて置く方が搬出は容易です。

一方、写真3は、道路とほ場の段差が大きいいため、ロールの積込みに不便です。写真4のように、段差が少ない場所に置く方

が積込みは容易です。

2 ロールクラブ

200kg や 300kg のロールを持ち上げるには、ロールクラブなどが必要ですが、常にほ場にあるとは限りません。畜産農家がロール搬出に利用する場合は、自ら持ち込むのか、誰かに貸してもらうのか、事前に詰めておく必要があります。

3 ほ場位置図

畜産農家は、ほ場の場所がわからないとロール搬出ができません。したがって農業再生協議会（旧：地域水田協議会）は、ほ場毎に利用者（畜産農家）を記載した「ほ場位置図」を作成し、事前におか酪等に情報提供する必要があります。

以上が主な課題と対策です。

来年度は、酪農家の需要拡大が困難と言われており、肉用牛農家の新規利用が増え

ると予想されることから、より一層、円滑な仕組みづくりが重要となります。

今年度の課題をふまえて、来年度の「収穫調製・引き取り手順」と「マッチング手順」を作成したので紹介します



写真1

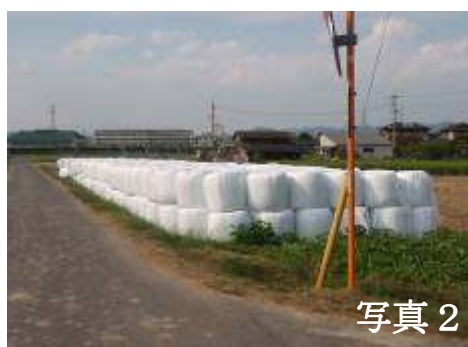


写真2



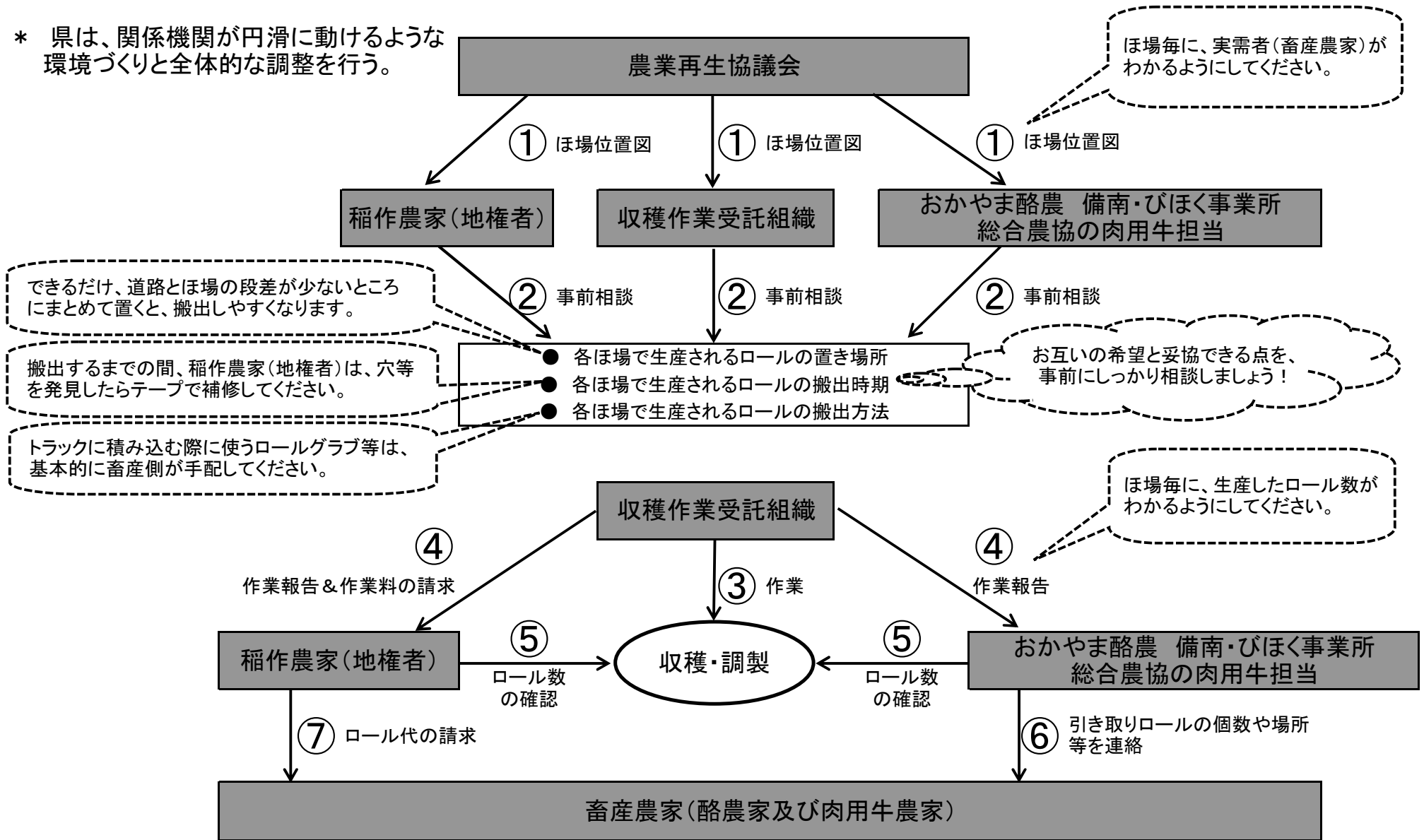
写真3



写真4

稲WCSの収穫調製・引き取り手順

* 県は、関係機関が円滑に動けるような環境づくりと全体的な調整を行う。



稲WCSのマッチング手順

